



第 686 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

※ホームページリニューアルに伴い講話会プログラムの郵送は今回が最後となります。

日 時： 2022年12月10日（土）午後2時00分

来場開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

<https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/85706360473?pwd=c1VVRld0MFNwdWFDQy9CQ21UQVQ5QT09>



ミーティング ID：857 0636 0473 パスコード：121520

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
来場参加	500 円	小児科領域講習 1 単位（iii 貼付用） 学術集会参加単位（iv -B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）
WEB参加	無 料	単位配布のご用意はございません。	



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 686 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 帝京大学 小児科 伊藤 直樹》

開会あいさつ 14:00 – 14:05

第 1 グループ 14:05 – 14:25 座長：置塩 英美 (帝京大学医学部小児科)

1) 著明な低カルシウム血症の母体から出生し、偽性 Bartter 症候群を呈した新生児の一例

○小川 和乃、山田 拓人、吉野 明日香、山野 春樹、下山 輝義、伊藤 一之、杉江 学、
森丘 千夏子、森尾 友宏

(東京医科歯科大学小児科)

日齢 1 の新生児。在胎 39 週 0 日、体重 2592g で出生した。経口哺乳開始後に頻回の嘔吐を認め NICU 入院とした。母体に低カルシウム血症、代謝性アルカローシス、低カルシウム血症、低クロール血症、尿中カルシウム排泄亢進およびクロール排泄低下を認めた。母体既往と併せて偽性 Bartter 症候群と診断した。

2) 胎児期からの甲状腺腫大に対して胎内治療を行った新生児例

○石上 順平、菅沼 広樹、武藤 大和、佐藤 恵也、山田 啓迪、齋藤 暢知、幾瀬 圭、池野 充、
久田 研、清水 俊明

(順天堂大学小児科)

日齢 0 の新生児。羊水過多を伴う甲状腺腫大を認めたため、臍帯血 TSH を測定したところ高値であった。胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症と診断され、在胎 34 から 37 週までレボチロキシン Na の羊水内投与を行い羊水過多は改善した。児は出生後も TSH が高値であったため生後 3 週から甲状腺ホルモンの補充を行った。母体と児の尿中ヨードは高値であった。

第 2 グループ 14:30 – 14:50 座長：安西 真衣 (心身障害児総合医療療育センター小児科)

3) 気管カニューレの慎重な選択により安全に気道管理を行えた先天性気管形態異常、気管軟骨スリーブの新生児例

○上田 明歩、森澤 和美、原 香織、金 隆根、有光 威志、小川 恵梨、武内 俊樹、
松山 茉衣、小林 久人、飛弾 麻里子、高橋 孝雄

(慶應義塾大学医学部小児科学教室)

日齢 0 女児。症候性頭蓋骨縫合早期癒合症に気管軟骨スリーブを合併し、生後 1 か月で気管切開を行った。早期乳児ではカフ無しカニューレが第一選択だが、本例ではカフ付きカニューレを選択、気管内でのカニューレ先端の位置と方向を適正に維持、カニューレ先端による気管損傷などの急性期合併症を回避できた。

4) 視神経炎を呈した抗 MOG 抗体関連疾患の 1 例

○中野 英太郎、森地 振一郎、岡田 このみ、中澤 はる香、林 佳奈子、竹下 美佳、呉 宗憲、
小穴 信吾、山中 岳

(東京医科大学 小児科・思春期科学分野)

11 歳男児。眼痛と視力低下で受診。既往に ADHD あり。眼底検査と脳 MRI 検査から視神経炎と診断し、ステロイドパルス療法を行い視力は回復した。血液検査で抗 MOG 抗体が陽性となり、同抗体関連疾患の確定診断を得た。現在再発はないが、本疾患は視力予後が良好なもののステロイド依存性に再発寛解を繰り返す症例もあり今後の経過に注意が必要である。

感染症だより 14:55 – 15:15 (講演: 15 分 + 質疑応答: 5 分)

講師: 高梨さやか (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:20 – 16:30 (講演: 60 分 + 質疑応答: 10 分)

「小児の頭痛の診方ー頭痛の診療ガイドライン 2021 を踏まえてー」 小児科領域講習 1 単位

座長: 千葉 康之 (ちばこどもクリニック)

講師: 山中 岳 (東京医科大学小児科学分野)

本邦の「慢性頭痛の診療ガイドライン 2013」が、8 年ぶりに「頭痛の診療ガイドライン 2021」に生まれ変わった。近年、片頭痛の治療は抗 CGRP 抗体が誕生し、トリプタン以来のブレイクスルーを迎えている。一方、成人ですら片頭痛の誤診や不十分な治療介入が指摘され、頭痛は主観でありその評価は難しい。本講演では演者の私見を織り交ぜながら、片頭痛を中心に診断のコツとガイドラインについて概説したい。

* * 休 憩 16:30 – 16:40 * *

第 3 グループ 16:40 – 17:05 座長 古市 宗弘 (慶應義塾大学医学部微生物学免疫学教室)

5) BCG 接種後早期に ACTH 療法を施行した West 症候群の乳児例

○安斎 亘、小林 梢、日隈 のどか、服部 透也、水野 克己

(昭和大学医学部小児科学講座)

8 か月男児。4p- 症候群が基礎疾患にあり、スパズム発作と脳波でヒプスアリスミアを認め、West 症候群と診断した。ACTH 療法 11 日前に BCG を接種していた。治療中は接種部位の変化を認めなかった。終了 13 日後 (接種 52 日後) に発赤、腫脹を認めた。BCG 接種後早期に ACTH 療法を行っても、免疫を獲得する可能性が示唆された。

○指定発言: 森 雅亮 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座)

6) 当院で分離された *Roseomonas mucosa* の 3 例

○田中 友香里、西村 光司、春日 悠岐、伊藤 嘉規、森岡 一朗

(日本大学小児科)

Roseomonas mucosa はブドウ糖非発酵のグラム陰性桿菌であり、土壌や湿潤環境等に生息している。病原性を有しているが臨床検体から分離されることは少ない。今回 4 歳男児の血液培養から *Roseomonas mucosa* が検出された。当科で過去に検出された 2 症例を加え、3 症例の経過と共に細菌学的特徴について報告する。

第 4 グループ 17:10 – 17:30 座長: 小西 健一郎 (東京大学医学部小児外科)

7) 腹腔静脈シャント留置により在宅移行できた、先天性サイトメガロウイルス感染に起因する肝硬変に多量腹水を伴った 14 歳男子

○山野 詩央¹⁾、前川 貴伸²⁾、山井 卓磨¹⁾、中村 紗佑里¹⁾、小関 元太³⁾、山本 裕輝³⁾、
藤野 明浩³⁾、窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾

(国立成育医療研究センター教育研修部¹⁾、同 総合診療部²⁾、同 小児外科系専門診療部小児外科³⁾)

14 歳男子。先天性サイトメガロウイルス感染に起因する肝硬変が進行し、多量の腹水貯留のため入院した。多量腹水で肺が押されて人工呼吸器管理となり、腹水穿刺排液を反復するうちに消耗が進行したが、腹腔静脈シャント留置により腹水が著減し、術後 1 か月で呼吸器を離脱し在宅移行できた。腹腔静脈シャント留置時の留意点とともに報告する。

8) 腸回転異常症術後に蛋白漏出性胃腸症を来した男児例

○亀井 優、高橋 英城、中坪 亜里沙、鈴木 崇、長谷川 里奈、松本 和華子、大野 幸子、
長尾 竜兵、山崎 崇志、山中 岳

(東京医科大学 小児科・思春期科学分野)

2歳4か月男児。6か月時に腸回転異常症を認め整復術施行した。1歳11か月時に腸重積を契機に全身の浮腫出現、蛋白漏出性胃腸症と診断された。腹部造影CTでは腸回転異常症増悪、上腸間膜動脈狭窄、上腸間膜静脈怒張があり再度手術とした。腸回転異常症は時に再発し、蛋白漏出を合併することがある。文献的考察を含め報告する。

会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。

(対象) 東京都地方会会員で、当該年度12月末までに満70歳を迎えられ本会に功績のあるかた。

推薦状(HPよりダウンロードいただき)に必要な事項を記載のうえ事務局へメールもしくは郵送してください。毎年11月末日までのご推薦分を12月の幹事会で承認を経て、総会で表彰させていただきます。なお、名誉会員は特典として会費を免除させていただきます。

【年会費納入について】

先日、会員の皆様に新会員システム【学会バンク】利用開始のお知らせを郵送致しました。新システムに移行したため、オンライン上で会員情報をご登録頂き、年会費の納入をお願いします。

2022年度のお支払いは2022年12月末日までにお手続きお願いいたします。

* ホームページから会員ログインして頂きますと、【学会バンク】ページに自動的に切り替わり、会費納入状況が確認できます。ご自身で確認頂き、未納分のお支払いをお願いいたします。

* 3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 今後の会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【講話会プログラムのペーパーレス化について(講話会プログラム郵送の中止)】

ホームページリニューアルに伴い講話会プログラムの郵送でのご案内は今回が最後となります。

第687回(2023年1月)講話会よりプログラムはホームページから各自ダウンロードして頂きますようお願い致します。メールアドレス登録をいただいている方にはメールにてプログラムをお送りいたします。引き続き郵送をご希望の場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。現時点ではサービスの予定ですが、今後は有料化する可能性がございます。

【メールアドレスご登録のお願い】

学会ホームページにて会員登録ページよりメールアドレスのご登録をお願いいたします。

上記にてご案内しておりますとおり、講話会開催案内(プログラム)及び年会費納入のお願いなど、今後ご登録メールアドレス宛にメールにてお知らせさせていただく予定です。

メールアドレスのご登録がお済でない方は前回お送りした【東京都地方会】会員メールアドレスご登録のお願いをご確認いただき、お手続きいただきますようお願いいたします。

そのほか、ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2023年1月14日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲) + ライブ配信
2023年2月18日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲) + ライブ配信
2023年3月11日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲) + ライブ配信

【担当医局】 日本大学医学部小児科

連絡 ☎ : jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】

<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。